



『薫風 南より来たり 殿閣 微涼を生ず』

「眼に青葉 山ほととぎす 初がつを」と詠われますが、一年のうちでもこの風薫る五月は見るもの聴くもの口にするもののどれも美しい季節です。初夏のちょっぴり汗ばむ日中は、その薫風が肌を通してやさしく心に染みわたります。正光寺の門をくぐられて、上記の詩のような心境になられる方も少なくないでしょう。ただこの詩ですが、900年前の中国での次のような禅問答に由来するものなのです。

圓悟(えんご)という禅の和尚が「多くの仏はどこから生まれて来たのかという問いに対して、私であったら次のように答えるであろう。」と言って「薫風 南より来たり…」の詩を示したのだそうです。阿弥陀如来や観音菩薩など多くの仏様は一体どこからどういう形で出現なさったのか？の答えが「一陣の風が巡り来て、境内にさわやかな涼しさが満たされた」というのは一体どういうことなのでしょう。私たちは仏様というと、よく分からないけれども特別にありがたいもの、我々を救って下さる尊きものと思っていますが、心の安らぎをもたらしてくれる一瞬の風が仏の正体かも知れません。美しくさえずるホトトギスかも知れません。もしかしたらかつおまで仏様の表れかも知れません。そんなふう解釈するのも取り敢えず可ではあります。が、実は禅問答ではそのように理屈で解き明かすことを極力嫌います。ではどうすれば良いのか？先月号のお釈迦様の誕生秘話もそうなのですが、禅では自己と自己以外の差別があるうちはお釈迦様の「唯我独尊」も「薫風自南来」も肚に落すことはできません。自他不二の大前提のもとに風に成り楼閣に成り、山に成り、仏に成り、カツオに成り…しかないのです。言葉や言い回しに拘泥すると抜け出せません。そんな時は坐禅をお薦めします。坐りましょう、こころしずかに…

…こいのぼりからまつたけへ…

♪屋根より高い こいのぼり
大きなまごいは おとうさん
小さいひごいは こどもたち
おもしろそうに 泳いでる



♪みどりの風に さそわれて
ひらひらはためく 吹き流し
くるくるまわる かざぐるま
おもしろそうに 泳いでる

◆ご存知「こいのぼり」の唱歌です。近頃は悠々と泳ぐ姿を見ることも少なくなり、屋根より高くない鯉のぼりを時折り見かけるようになりました。少しさみしい気もしますが、いずれにせよ昔ながらの順番にお父さん、お母さん、子供たちがおもしろそうに泳いでいます。風のある時は皐月の風に向かってはつらつと泳ぎ、風の無い日には鯉の滝登りさながらに天に向かって龍と化す姿にも見えます。とても微笑ましく無くしてはならない日本の5月の情景ですね。

◇話は少しそれますが、2,300年ほど昔に中国で生まれた儒教の教えの中に「五倫」という五つの倫理徳目を説いたものがあります。

- ・父子の親：父と子の間は親愛の情で結ばれなくてはならない。
- ・君臣の義：君主と臣下は互いに慈しみの心で結ばれなくてはならない。
- ・夫婦の別：夫には夫の役割、妻には妻の役割があり、それぞれ異なる。
- ・長幼の序：年少者は年長者を敬い、したがわなければならない。
- ・朋友の信：友はたがいに信頼の情で結ばれなくてはならない。

こいのぼり発祥には諸説あるようですが、この五倫も影響していると聞いたことがあります。親子や君臣、夫婦、朋友の間には「お互いに」があるのですが、「長幼の序」は何だか一方的なニュアンスが強く、誤解されがちです。某復興大臣も大きな勘違いで身を滅ぼしましたが、やはり年長者が年少者に序列を求めるのであれば、それ相応の振る舞いや生き方の手本を示すべきでしょうね。そうすればおのずと長幼の序は生まれてきますから。

◆実は「長幼の序」は孟子さまが初めて仰ったことではなく、お釈迦さまが亡くなられる時に弟子たちに遺言したことでもありました。指導者が亡くなり弟子たちだけになったら必ず上下の序列が生まれます。それが修行の妨げになることも少なくはありません。お互いがお互いを尊重し合うことが大切ではありますが、未完の弟子たちには難しい事とも言えます。そこでお釈迦さまは先に出家した者が先輩であり一日でも出家が遅ければ後輩になるということをお願いされました。出身階層の上下はもちろん、年齢の大小や出家前の経歴の高低ではなく、修行僧になる戒律を受けた日時のみを基準としました。そしてそれは現在の日本の専門道場でも引き継がれているのです。一日でも多く修行をした者が尊い、またそのような尊い精進を日々積み重ねなければ修行とは言えないということなのでしょう。

◇正光寺の外便所が使いやすく大改修されました。通学路の途中にある便所ですので児童や園児も良く利用しています。それ以上にとても大勢の大人たちがトイレに駆け込んできます。自宅のトイレや他人の目が届くトイレでは公衆道徳も守られますが、中には悲しくなるような使われ方をされる場合もあります。「長幼の序」ならぬ大人がきちんとお手本を示してほしいものです。トイレの神さま（ウスシマ明王）の張り紙と共に、注意書きも添えておきました。

『急ぐとも ころろしくかに^ま的ねらえ 外に^も漏らすな 松茸の露』と。ご用心、ご用心…